

今年、下水道機構が平成4年に設立されてから、ちょうど15年目という節目の年にあたります。この間、設立趣意書にもあるように、「産・学・官の橋わたしを標榜して、下水道技術の研究開発と普及促進」に努めて参りました。現在では、下水道にかかわる計画から水処理、汚泥処理、管渠・シールドなど全ての技術を網羅する社会的影響の大きな研究開発を行い、延べ436件の新技術を世の中に生み出してきました。この中には、下水道の枠を飛び越えて、水環境にかかわる広範な分野で活躍する技術も出てきています。

しかしながら、現在の下水道を取り巻く状況は、一応の施設整備がすんだものの、地域間格差の是正や浸水対策、合流式下水道の改善、省エネルギー、未利用資源の活用・エネルギーの有効利用など様々な課題が山積しています。また、経営面においても少子高齢化に伴う下水排水量の減少、技術者の減少、老朽化施設の増大など困難な課題が待ち構えています。

新たな「橋わたし」をめざした 『下水道機構ビジョン』の 策定について

財団法人 下水道新技術推進機構
理事長 **松井 大悟**



これらの課題に対して下水道機構は、21世紀型下水道の実現をめざして新たな「橋わたし」の役割を担うための『下水道機構ビジョン』の策定に取り組みました。このビジョンでは、これまで下水道機構の信頼の礎となってきた「多様性」、「機動性」、「客観性」、「先見性」をさらに磨き上げ、関連する様々な団体、機関との連携を進めていくことで、真に国民の願いを実現する下水道ファシリテーター（促進者、進行者）としての役割を果たすことが掲げられています。

また、ビジョンのキーワードとして「クロスオーバー」という概念を取り入れました。下水道機構が考えるクロスオーバーとは、種々の要素を組み合わせることで新たな物を創り出すことであり、産・学・官と国民の関係、現在・過去・未来の関係、そして環境を取り巻く様々な分野とのクロスオーバーです。

さらに、「誰に」「何を」「どのように」橋わたしするのかということをも明らかにするため、77項目からなる「行動指針」を作成しました。この指針は、下水道機構に何ができるのかというシーズの視点と、何が求められているのかというニーズの視点の双方から提起されており、今後は、これらをアクションプランとしてまとめあげ、事業運営に反映させていこうと考えています。

そして、これらビジョンの要素をまとめあげ、着実に遂行することによって、最終的には、下水道技術を核に、産・学・官と下水道のエンドユーザーである国民がともに喜び合えるWin-Winの関係を構築することをめざします。

■下水道機構ビジョン作成の背景と主旨

これまでの15年で築き上げた下水道機構の役割をさらに発展させ、次の15年に向けた新たな行動指針とします。



■下水道機構ビジョンのコンセプト

下水道技術を核に、産・学・官と下水道のエンドユーザーである国民がともに喜び合えるWin-Winの関係を構築します。

